

江東区協働事業提案制度 平成30年度実施事業報告書

江東区で実施している協働事業提案制度で平成28年度および29年度に採択され、平成30年度区と協働で実施した3事業について、各実施団体から受けた事業報告および江東区区民協働推進会議委員からの意見を報告します。

[目次]

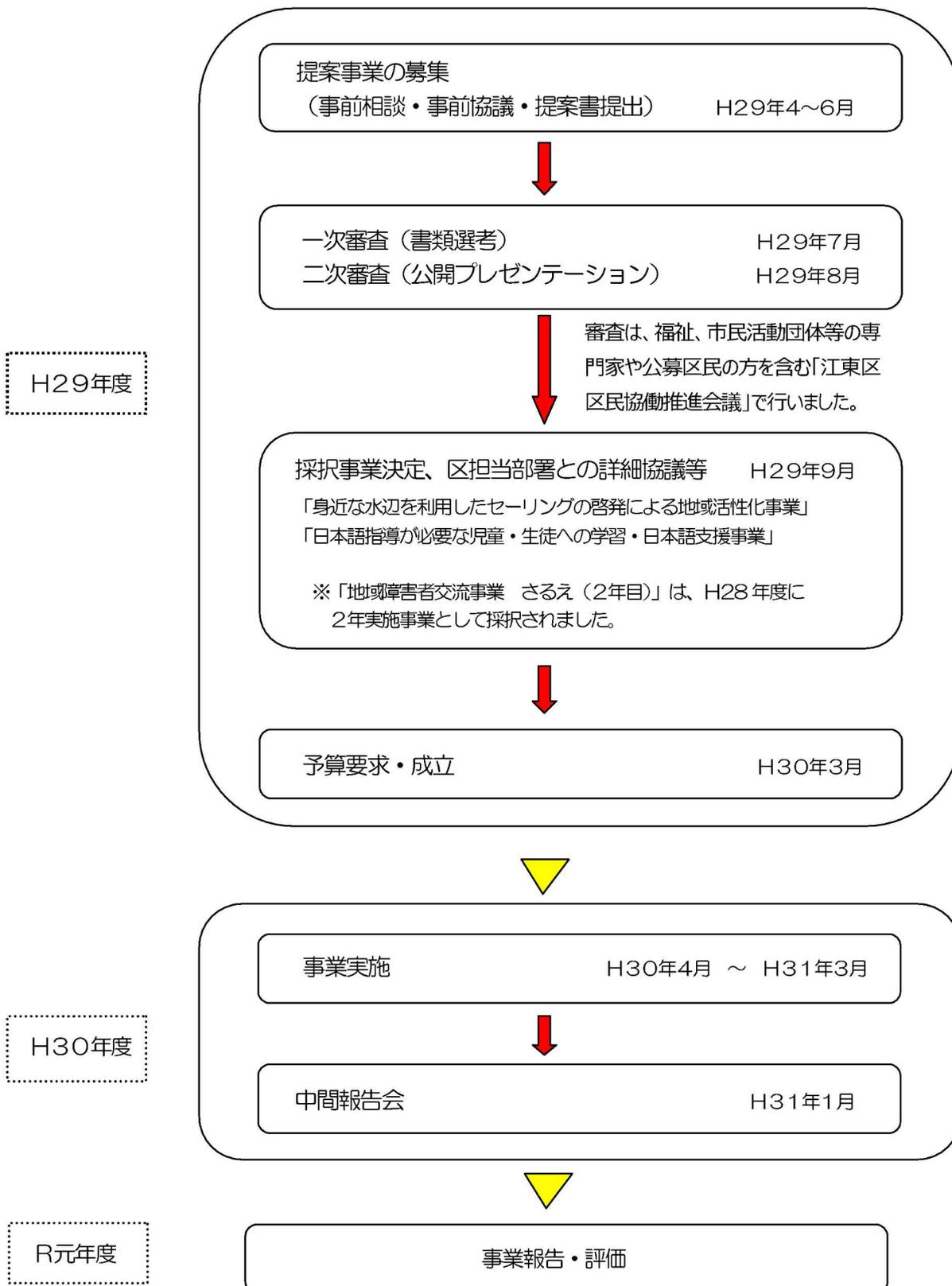
1 江東区協働事業提案制度概要	1
2 江東区区民協働推進会議委員名簿	2
3 協働事業結果報告書	
(1) 地域障害者交流事業 さるえ（2年事業・2年目）	3
(2) 身近な水辺を利用したセーリングの啓発による 地域活性化事業	27
(3) 日本語指導が必要な児童・生徒への学習・日本語 支援事業	59
4 江東区区民協働推進会議委員意見書	
(1) 地域障害者交流事業 さるえ（2年事業・2年目）	63
(2) 身近な水辺を利用したセーリングの啓発による 地域活性化事業	64
(3) 日本語指導が必要な児童・生徒への学習・日本語 支援事業	65

江東区地域振興部区民協働推進担当

1 江東区協働事業提案制度 概要

地域で活動する市民活動団体等の皆さんから、区と共に取り組むことで「こんな課題を解決できる」「よりよいまちをつくることができる」といったアイデアを、協働事業として募集します。

この制度によって選考され採択された事業は、提案団体と区が協議を重ね、協働により事業を実施します。



2 令和元年度 江東区区民協働推進会議委員名簿

◎…会長 ○…副会長

学識経験者	◎ 安藤 雄太	東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー
	大島 隆代	早稲田大学人間科学部 准教授
中間支援組織	○ 枝見 太郎	一般財団法人富士福祉事業団 理事長
区民	名取 正	公募委員
	星 明憲	公募委員
市民活動団体	中安 敬子	特定非営利活動法人マザーツリー自然学校 理事長
産業団体	石塚めぐみ	東京中小企業家同友会 江東支部 副支部長
公益活動団体	久保 雅美	社会福祉法人 江東区社会福祉協議会 江東ボランティア・センター所長
	松村 浩士	公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団 管理課長
区職員	伊東 直樹	地域振興部長

3 協働事業結果報告書
 (1) 地域障害者交流事業 さるえ (2年目実施)

平成31年 4月 26日

江 東 区 長 宛

団 体 名 一般社団法人 江東ウィズ

団 体 所 在 地 江東区猿江2-9-5

代表者職・氏名 代表理事 高原 武

協働事業結果報告書

平成28年度江東区協働事業提案制度採択事業の実施について、次のとおり報告します。

事業名称	「地域障害者交流事業 さるえ」
事業の実施期間	平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 3月 31日
実施事業の概要 ※詳細については「具体的事業内容」に記入し、ここでは要約して欄内に収まるように記入してください。	2020年パラリンピックの開催に向けて、障害のある人もない人も共に認め合い、共生できる社会を目指して、昨年を引き続き、ボランティア育成を行なう。年8回のボランティア連続講座（講演・体験）に加え、2回のイベントを開催し、受講生が、障害のある方と実際に関わったり、イベントの企画に参画したりすることを通して、楽しみながら障害のある方への理解を深める。
具体的事業内容 ※実施時期・従事者・参加者・実績などを具体的に記入してください。詳細を別紙として提出することも可能です。	別紙にて報告

<p>事業の成果</p> <p>※この事業で取り組もうとした課題は、どこまで達成できましたか。</p>	<p>1年目の受講生に対しては、1期生として講座で発言していただく、ふれあいまつりでの売り場を受講生だけで運営するなど、自主的に関わられるような工夫をしてきた。また、他団体のボランティアを紹介したりもし、育成に努めてきた。</p> <p>2年目も事業内容としては大きく変えず、障害のある方本人や家族の方の思いを聞いたり、障害のある方と直接関わったりする中から、知識だけでなく、体感を通して、障害のある方を深く知っていただくことを重視した。昨年を受講生に加え、今年度新たな受講生の参加も得られた。</p>
<p>協働の効果</p> <p>※区と協働したことによって、どのような効果が得られましたか。</p>	<p>昨年同様、区との協働で高い信頼性が得られ、また、区報や区のHPなどで幅広く広報していただいたことにより、多数かつ多様な層の参加者を得ることができた。また、教育委員会を通じて小中学校の教職員への呼びかけをしたり、ボランティアセンターに声かけをしたりし、関係する行政機関に対しても事業について広く知っていただく機会を持つことができた。</p>
<p>今後の活動展開</p> <p>※この事業で取り組んだ課題に対し、貴団体は今後どのような活動を展開していきますか。</p>	<p>受講生やイベントの参加者から、今後の継続を求める声を多くいただいている。主催者としても、「まず知ることが大事なので、体験する機会を増やす」ことを重視し、2年という短い期間ながらも手応えは感じているので、継続していきたいと考えている。具体的には、随時ボランティア体験の受け入れ、イベント(ウォークラリー・クリスマスコンサート)の実施、内部研修も兼ねたボランティア講座の開催(年1回)を行なう。また、専門学校からの授業の一環としての体験も受け入れていく。障害者理解を深めるためにも、行政や教育機関、地域の町会や団体などと一緒に取り組めることを考えていきたい。</p>
<p>自由意見</p> <p>※事業実施を通じて気づいたこと(新たな課題、実施体制、参加者の声等)を記入してください。</p>	<p>障害者理解を深めるためには、知識について学ぶだけでなく、実際に障害のある方に関わる経験を通して、「体感」することが大切だということを、改めて確認することができた。同時に、障害のある方に関わったことがなく、漠然と“怖い”と思っている人が、まだまだたくさんいることも感じた。</p> <p>2年間でボランティア育成は完成という訳にはいかないが、区との協働によって、「体験を通して知ることで変わる」という一定の成果を得たことが、受講生の感想などから伺える。</p> <p>1団体だけで完結できることではないので、今後も区や関係団体と協力して継続していきたいと考えている。また、放課後等デイサービス事業が急増し、その卒後の受け皿の必要性も広がっているため、青年成人の余暇活動のニーズについても、区と協力して検討していきたい。</p>

※ 事業の成果物(冊子等)、参加者アンケートの結果、写真など、提出できるものがある場合は添付してください。なお、ご提出いただいたものは返却できません。

2018年度

江東区協働事業提案制度採択事業「地域障害者交流事業さるえ」

東京2020オリンピック・パラリンピックで多くの方が訪れる江東区

— 障害のある人もない人も共に認め合い、共生できる社会を目指して —

一般社団法人江東ウィズ

ボランティア連続講座開催

ボランティア講座

◆第1回◆

日時：6月10日（日）14：00～16：30

会場：江東区文化センター6階会議室

内容：第1部 パネルトーク「余暇を楽しむ」

発言者：岩崎貴子親子・山田兼生親子・大越成俊氏・山本治氏

（障害者本人・家族・昨年のボランティア講座受講生）

第2部 講演「北欧に学ぶ障害のある人の余暇～障害者理解のために」

講師：園部英夫氏（日本障害者協議会副代表・全国障害者問題研究会副委員長）

参加者：48名

◎パネルトークの主な内容

兼生さんは、昨年大越さんで行った江戸東京博物館のことを「楽しかった。大江戸線。お相撲さんとかいろいろいた。ブラック（コーヒー）飲んだ」と嬉しそうに語りました。大越さんは、障害のある人と関わるのが初めてだったため、「どう接していいか、初めはとても戸惑った」と話されました。貴子さんも、「アニメやゲームが好き。ドラゴンボールやアイ活。嵐の相葉くんも好き」と楽しみを話してくれましたが、お母さんとしては、1人で外に出すのは心配で、「私が一緒に出かけられないときは、家でテレビや漫画など、内活（内職活動）することになってしまう」と悩みも語られました。

山本さんは、3年前に「自分の生涯学習のためにボランティアを始めた。楽しみながらボランティアをしている。自分自身の余暇をどう過ごせばいいかを考えさせられた」と語られました。大越さんも、この講座を受けてから、視覚障害の方を見かけた際に、勇気を出して声をかけられたとのこと。

「余暇」を楽しむことは、障害のあるなしに関わらず、誰にとっても大事な時間。余暇活動を通して、その人の世界が広がっていくということが伝わってくるパネルトークでした。



◎講演の主な内容

余暇活動を考えるとき、よりどころとなるのは、「障害者権利条約」。30条に、「文化的生活、リクレーション、余暇、スポーツへの参加」が「権利」としてうたわれています。日本では、余暇は「余りの暇」、北欧では「人権」。デンマークには「余暇法」があり、障害の有無に関わらず、5人以上の人が集まって文化活動をするのに対して、自治体から場所と予算が助成されます。はたらく（仕事・労働）のは、ひとのため。道楽（楽しむ、楽に）は、自分のため。『はたらく+道（みち）らく=人生（LIFE）』という考え方が、北欧では定着しています。

障害のある人の生活も保障されています。18歳になると、選挙権を持ち、一人暮らしをすることも「普通」。自分の部屋に大好きなコレクションやボールプールを置いたり、車椅子の人が高さを調節できる調理台を設置していたりします。精神障害のあるハンス氏の障害者年金は、約300万円。部屋には、里親として支援するナミビアの子どもの写真が飾られていました。

仕事を終わると、“ラブック”と呼ばれる余暇活動支援センターで仲間と余暇を楽しみます。また、デンマークには、“STU”と呼ばれる学びの場（学校卒業後の3年間、無償）もあります。それらの場で支援するスタッフは、「できなさ」探してでなく、同年齢の人と同じラインに立つために「必要なことは何か」を探すと言っていました。インクルージョン（排除しない）という考えが基本にあり、すべての人が充実した人生を歩むために、国が社会的環境を整えるということが徹底しているのです。

日本では、糸賀一雄氏が、「この子らに世の光を」ではなく、「この子らを世の光にできる社会を！」と訴え、その思いは、「どんなに障害が重くても、教育が必要」「仲間と働く場が必要」と次代に受け継がれてきたのです。家族、職員、ボランティアの皆さん、私たちはリレーランナー。

最後に講師の園部さんは、“みんなでがんばろう！”という思いを込めて、アンパンマンの替え歌を歌って下さいました。♪そうだ おそれないで みんなのために 愛と勇気だけが友だちさ。ああ 余暇活動の仲間 優しい君は 行け！みんなの夢守るため！



◎受講生から寄せられた感想

- 少し緊張しながら参加してみたのですが、とても明るい雰囲気、とても楽しく講座を聞くことができました。次回も参加してみようと思えました。
- 今まで何もしていなかったが、これから何が出来るかを見つける今日です。
- たいへん中身の濃い講座でした。自分の立場で何が出来るか、考え直す契機となりました。
- この1年、心をかよわせるにはどうすれば良いのか、行動を通じて学ばせてもらいます。



- 山本さんが最後に、「ボランティアをすることによって、障害者の方の余暇も自分の余暇も充実します」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。
- 私の尊敬する福祉の大先輩が、以前こんなことを言っていました。「私達は、障害者の人達にものすごい大きなエネルギーをもらっている」。相手の障害のある人達と一緒に活動し、喜びを共有できたとき、とても嬉しくなりますし、ボランティア先に感謝されたとき、大したこともしていないのに…と謙遜もしつつ、又来よう、又がんばろうというエネルギーをいただきます。もっともっと多くの人とエネルギーを共有したいです。
- 障害を持った方々が楽しむことについて、考えさせられました。余暇を楽しむことで仕事意欲にも繋がりが、心の安心にも繋がるのだと感じました。又、地域の理解を深めていくためにどうしていくのか、考えさせられるとても良い機会になりました。
- 去年のボランティア講座に参加された方の「知らないということは無関心であるということ」という言葉が、とても印象に残りました。
- 去年のボランティア講座の受講生の話を聞いたのはよかった。大越さんの、声をかける勇気が持てたという発言は感動した。山本さんの、自分の余暇も楽しむという考え方に共感した。
- 大越さんが初めて兼生くんに会った時の印象を「とても緊張していた。最初はしゃべれなかったけど、笑ったり、手をさわったり…コミュニケーションがとれた」と話されていた。コツを「言葉で教えて下さい」と言われても、なかなか言語化は難しい。多分、大越さんも1年経って兼生くんと、笑ったり、手をさわったりというコミュニケーションに加えて、言葉でのコミュニケーションも普通にされていると思う。いつのまにか自然にそう思ったと思う。そういうことができるのが体験の強みだなと、自分自身を振り返りながらそう思った。
- 北欧事情、本当にうらやましいです。障害をもつ子を持つ親としては、ため息が出ます。この日本では、家族だけが頼りにならざるを得ない状況ですので、本日頂いた北欧の情報には我が国との土壌の違いを感じざるを得ません。
- 北欧のお話は、さすが園部さんです。すーっと話に引きこまれる話術・歌唱力に感動です。比較してはいけませんが、日本の社会保障に対する考え方のひんじやくさ、予算の低さを変えないといけませんね。みなさんで一緒にこれからも前にすすめたいと思います。

◆第2回◆

体験型講座：『ボランティア体験をしよう！～ふれあいまつりに参加』

※ふれあいまつり

⇒「障害児・者のゆたかな地域生活をつくる」をテーマに、1989年から毎年行なっているまつり

日時：10月7日（日）9：00～16：00

会場：猿江恩賜公園

内容：体験「ふれあいまつりに参加」

参加者：5名 / 振返りの時間にアドバイザーとして

発達相談員の荒井聡氏と元特別支援学校教諭の佐田光三郎氏が参加



◎体験の主な内容

ふれあいまつりの「ソースせんべいゲーム」の売り場を担当し、受講者5名で販売する。今年度は、ボランティア体験指導係を配置せず、昨年度の受講生を中心に、準備や担当の割り振りなども受講生のみで行なう。体験中は、ウィズ会員の子どもたちも含め、ゲームに来た子どもたちとの交流を図る。会員の子どもたちが担当のボランティアと手伝い体験に入るので、その子どもたちとの交流も図る。

- 9：00 ふれあいまつり主旨説明、1日の流れや注意事項等。売り場の準備。
- 10：00 おまつり開始
- 14：00 おまつり終了～片付け
- 15：00 振り返り
- 16：00 終了



◎受講生から寄せられた感想

- ・ゲームを取り入れて、楽しみながらソースせんべいがもらえるので、子どもたちに人気だった。もっと大きいサイコロにした方が目立っている。
- ・晴れて無事に終わって良かった。食品衛生上のトラブルがなくて良かった。
- ・今年は、お客さんで来た子どもや手伝いに来た子どもたちとゆったり話ができて良かった。
- ・売り上げのことを考えるならば、やり方を考えておく必要がある。来場者の見通しを立てた上で、効率よくやるやり方を考えておけば良かった。
- ・昨年は、備品が全部そろっていたが、今年はふたを開けたら足りない物があり、少し戸惑った。何が何のために必要なのか、事前にわかっていると良い。

◎アドバイザーから

今年は、30度を超える暑さの中、本当にお疲れ様でした。ソースせんべいの売り上げが、5300円。1回50円だったので、100人あまりのお客さん（昨年の約半数）が来たことになる。昨年は、予想外に人出が多く、忙しい思いをさせてしまったが、今年は、ゆったりと子どもたちとのやりとりも楽しめたのではないだろうか。

また、今年は2年目ということで、準備から片付けまですべて受講生だけでやっていただいた。自主的に関わる中で、やり方や必要な物など、いろいろと気づいた点もご意見で出していただけて良かった。来年の課題としていきたい。

今年は、休憩も交代でとっていただき、おまつり全体の様子や、地域の方がどのように関わってくださっているかなども、ゆっくり見ていただけたのがとても良かったと思う。

